

そよかぜ No.11

三重県立飯野高等学校
全日制 人権だより
2021年3月1日 発行

◆◇社会をつくるのは誰か

「木は水を浴びて育つ、人は言葉を浴びて育つ」

「心の栄養は人によって与えられ、人によって奪われる」

世の中には、いい言葉もあれば、わるい言葉もあります。言葉の力は強く、わるい言葉が聞こえてくる場所にいると、心がしんどくなります。植物が水不足で枯れてしまうように、心が枯れてしまいます。反対に、いい言葉が聞こえてくる場所にいると、前向きな気持ちになれます。がんばろうと思う気持ち、成長する力がわいてきます。このことは、自分が誰かに向けた言葉、誰かが自分に向けた言葉だけではなく、自分が自分に向ける言葉にもあてはまります。自分自身を認め、自分を大切にすること。これも人権を守ることの一つです。

どういう社会にしたいかを考えるのも、社会をつくるのも、私たち一人ひとりです。私たち一人ひとりの意識や行動によって、社会をよくすることも、わるくすることもできます。社会で起きていること、聞こえてくることは、自分が今生きている社会の中での問題です。様々なことを学習し、様々な人の思いを知ることで気づきが生まれ、自分を見つめることにつながります。自分が社会をつくる一員だと自覚し、少し意識を変えて日常や社会での出来事、自分や他者を見ることができれば、皆が安心して暮らせる社会に近づけるはずです。

◆◇ふとしたときに「自分」へ問いかけて・・・

人権活動をしている人からお話を聞いたときに、これは大切だと思った問いを2つ、皆さんにも紹介します。日常生活や世の中での出来事をとらえるときのヒントにしてください。「人権について考えることが文化になってほしい」と、その人は話してくださいました。12月の佐野さんの講演ともつながるような気がします。

◎「普通、〇〇だね」「普通〇〇するでしょ」

…「普通」って、誰にとっての「普通」なのでしょう？

◎「みんな」が言っている。「みんな」が思っている。「みんな」がしている。

ニュースやSNS、インターネットで言われたり書かれたりしている。

… 本当に「みんな」でしょうか？ 社会の中にいる「全員」でしょうか？

人権も、どの教科の学習も、社会をいろいろな視点からとらえるために必要です。成果がすぐに表れないものもあるでしょう。しかし、人生という長い時間をかけて見れば、すべてが皆さんにとって意味のあるものだと思います。皆さん一人ひとりが、卒業後も輝き、「やさしさ」を届ける人であってくださることを祈ります。これから新しく出会う人たちとの関わりの中で様々なことに気づき、学び続けてください。

3年生のみなさん ^^
ご卒業おめでとうございます！！